

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業 概要

琉球大学大学院医学研究科
循環器・心臓・神経内科学（第三内科）講師
崎間 洋邦

琉球大学病院
地域・国際医療部（第三内科兼任）助教
患者支援センター副センター長
おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター
國場 和仁



背景

我が国において循環器病(脳卒中+心疾患)

- ・死因の第2位

厚生労働省: 令和3年(2021年)人口動態統計より

- ・重い要介護状態(要介護4、要介護5)の原因の第1位

厚生労働省: 令和元年(2019年)国民生活基礎調査より

- ・循環器病による医療費は年間約3.8兆円(約12.5%)と新生物(14.2%)に次ぐ2位

厚生労働省: 平成28年度(2016年度)国民医療費より



国が循環器病に介入するため基本法が整備されることとなり

循環器病対策基本法の成立

参議院法制局

Legislative Bureau House of Councillors

参議院法制局の紹介 | 参議院議員提出法律案情報 | 成立参法の紹介 | 法制執務コラム集 | 採用情報



参議院法制局は、参議院において、議員の立法活動を補佐する国の機関であり、参議院議員などの依頼に基づいて法律案及び修正案の立案、法律問題の調査などの業務を行っています。

[ホームへ](#) [English](#) [サイトマップ](#) [リンク集](#)

成立参法の紹介

◆健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法（平成30年12月14日法律第105号）

[背景]

脳卒中、心臓病その他の循環器病が国民の疾病による死亡の原因及び国民が介護を要する状態となる原因の主要なものとなっている等循環器病が国民の生命及び健康にとって重大な問題となっており、国民の健康寿命の延伸等を図り、あわせて医療及び介護に係る負担の軽減に資するため、循環器病対策を総合的かつ計画的に推進する必要があること。

[内容]

循環器病対策に関し、基本理念を定め、国、地方公共団体、医療保険者、国民及び保健、医療又は福祉の業務に従事する者の責務を明らかにし、並びに循環器病対策の推進に関する計画の策定について定めるとともに、循環器病対策の基本となる事項を定めることにより、循環器病対策を総合的かつ計画的に推進しようとするもの。

循環器病対策基本計画

全体目標

2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少

個別施策

循環器病：脳卒中・心臓病その他の循環器病

【基盤】循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備 循環器病の診療情報を収集・活用する公的な枠組みの構築

1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- 循環器病の発症予防及び重症化予防
- 子どもの頃から国民への循環器病に関する正しい知識（循環器病の予防、発症早期の適切な対応、重症化予防、後遺症等）の普及啓発の推進
- 循環器病に対する国民の認知度等の実態把握

3. 循環器病の研究推進

- 循環器病の病態解明、新たな診断技術や治療法の開発、リハビリテーション等に関する方法に資する研究開発の推進
- 科学的根拠に基づいた政策を立案し、循環器病対策を効果的に進めるための研究の推進

2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進
- ② 救急搬送体制の整備
- ③ 救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築
- ④ リハビリテーション等の取組
- ⑤ 循環器病の後遺症を有する者に対する支援
- ⑥ 循環器病の緩和ケア
- ⑦ 社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援
- ⑧ 治療と仕事の両立支援・就労支援
- ⑨ 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策
- ⑩ 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援

循環器病対策の総合的かつ計画的な推進の確保のために必要な事項

- (1) 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化
- (2) 他の疾患等に係る対策との連携
- (3) 感染症発生・まん延時や災害時等の有事を見据えた対策
- (4) 都道府県による計画の策定
- (5) 必要な財政措置の実施及び予算の効率化・重点化
- (6) 基本計画の評価・見直し

<循環器病の特徴と対策>



脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業

令和6年度当初予算額 2.2億円 (2.8億円) ※ ()内は前年度当初予算額

1 事業の目的

○循環器病対策推進基本計画で、脳卒中・心臓病等（循環器病）患者を中心とした包括的な支援体制を構築するため、多職種が連携して、総合的な取組を進めることとしているが、これまでに都道府県が医療計画などで実施している対策よりも幅広い内容であり、各医療施設で個々の取組はされているものの情報が行き渡っているとはいえず、全ての支援について、十分なレベルで提供することに対して課題がある。
○この取組を効果的に推進するため、専門的な知識を有し、地域の情報提供等の中心的な役割を担う医療機関に脳卒中・心臓病等総合支援センターを配置し、都道府県と連携しつつ、地域の医療機関と勉強会や支援方法などの情報提供を行うなど協力体制を強化し、包括的な支援体制を構築することにより、地域全体の患者支援体制の充実を図ることを目的とする。

【事業創設年度：令和4年度、補助率：定額（10/10相当）】

2 事業の概要・スキーム

<事業の概要> 都道府県の循環器病対策推進計画等を踏まえ、自治体や関連する学会等とも連携しながら、以下の内容に関する事業を行う。
・循環器病患者・家族の相談支援窓口の設置（電話、メール相談を含む）
・地域住民を対象とした循環器病について、予防に関する内容も含めた情報提供、普及啓発
・地域の医療機関、かかりつけ医を対象とした研修会、勉強会等の開催
・相談支援を効率的に行う、資材（パンフレットなど）の開発・提供
・その他、総合支援を効率的に行うために必要と考えられるもの

<期待される効果>
・地域医療機関の診療及び患者支援機能の向上が可能となる
・国民がワンストップで必要な情報を得られるとともに、より効率的かつ質の高い支援が可能となる

脳卒中・心臓病等総合支援センターのイメージ

本モデル事業の有効性を検証した上で、好事例として横展開を図る等により将来的に全国に広げることを検討



3 実施主体等

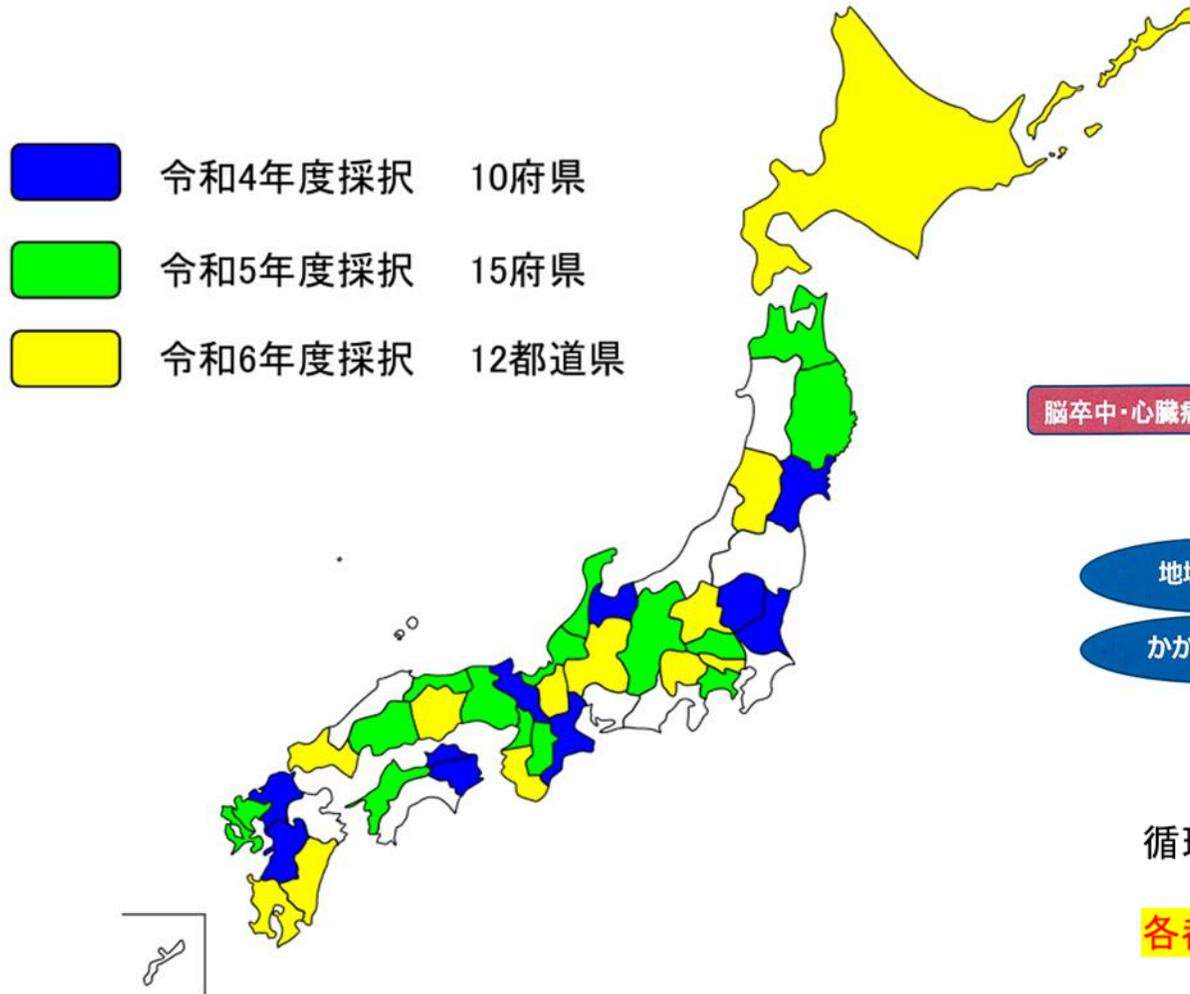
◆実施主体：各都道府県において、脳卒中・心臓病等の循環器病に対する中心的な役割を担う医療機関
①先天性疾患に対する診療、外来リハビリテーション、緩和ケア等、循環器病に対する総合的な診療を行える施設であり、地域の病院、かかりつけ医などとも密接に連携が取れること②自治体との密な連携が取れ、循環器病の後遺症を有する者に対する支援及び治療と仕事の両立支援・就労支援を行っていること

◆箇所数：12箇所

◆1箇所あたり：1,800万円程度

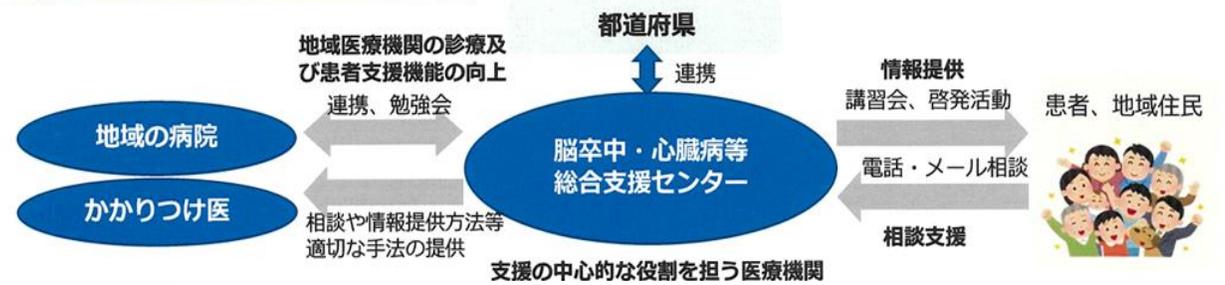
◆事業実績：令和5年度応募数27医療機関、採択数16医療機関（15府県）
令和4年度応募数32医療機関、採択数12医療機関（10府県） 合計25府県で事業開

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業



脳卒中・心臓病等総合支援センターのイメージ

本モデル事業の有効性を検証した上で、好事例として横展開を図る等により将来的に全国に広げることを検討



循環器病対策推進基本計画の患者支援に関する重点施策を

各都道府県のハブとなって行政・地域医療機関・各団体と連携して進める

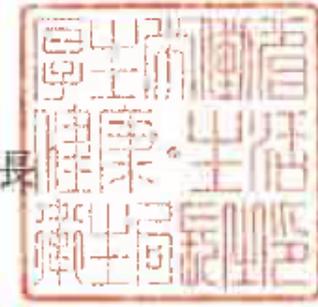
脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業

厚生発 0327 第 6 号

令和 7 年 3 月 27 日

国立大学法人琉球大学 琉球大学病院
病院長 大屋 祐輔 殿

厚生労働省健康・生活衛生局長

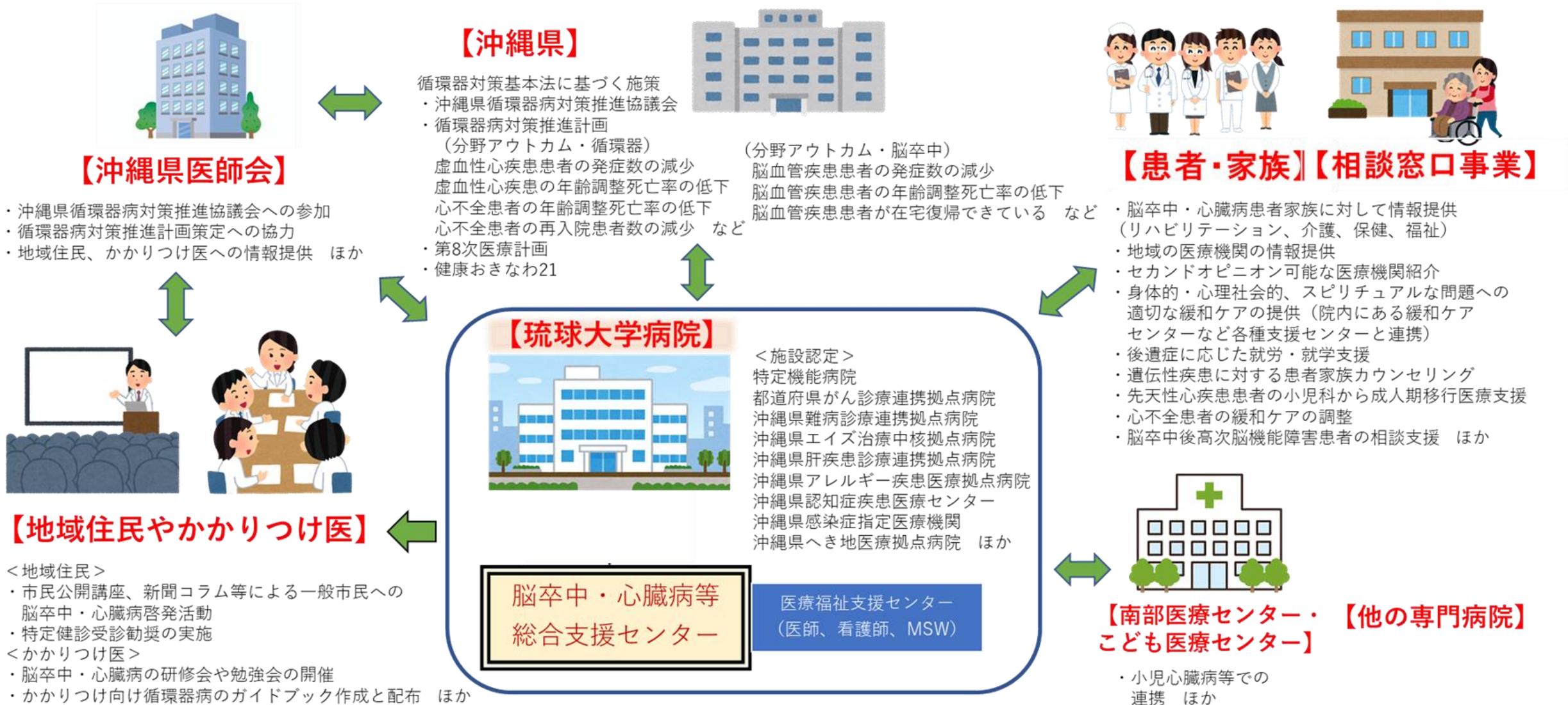


令和 7 年度（令和 6 年度からの繰越分）

脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業実施法人の採択について

標記につきまして、循環器病総合支援委員会における審査・採点の結果、貴法人を採択することとなりましたので、お知らせします。

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター



おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター

場所: 患者支援センター横
(病院3階 Kブロック)

センター長: 楠瀬 賢也(第三内科教授)

副センター長: 古川 浩二郎(第二外科教授)

副センター長: 浜崎 禎(脳神経外科教授)

センター実務
脳卒中担当

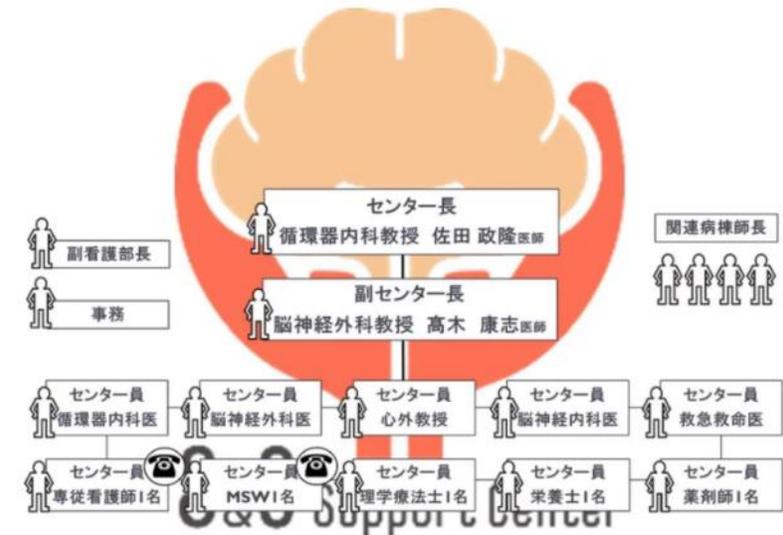
國場 和仁

心臓病担当 永田 春乃

パートタイムMSW 1名

事務補佐

知念 朝子



2025年9月某日時点

参考: 徳島大学脳心センター

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター運営委員会

センター長: 楠瀬 賢也 (第三内科教授)

副センター長: 古川 浩二郎 (第二外科教授)

副センター長: 浜崎 禎 (脳神経外科教授)

平田 哲生 (患者支援センター長他、特命教授)

山田 尚基 (リハビリテーション部教授)

伊良皆 美香 (看護副部長)

上原 泉 (9北師長)

山川 知美 (10南師長)

國場 和仁 (地域・国際医療部)

永田 春乃 (リハビリテーション部)

2025年7月15日時点

- ①患者相談窓口の設置
- ②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動
- ③地域の医療機関、かかりつけ医を対象とした研修会、勉強会
- ④患者や家族向けのパンフレット作製、ホームページの作成

①患者相談窓口の設置

相談例

- 脳卒中・心臓病などについて一般的な情報提供
- 再発予防に関する生活習慣などの相談
- 在宅療養の相談や介護に関する相談
- 福祉サービス申請・利用手続きの相談
- 後遺症治療に関する相談
- 職場復帰、社会参加などに向けた相談

等

●後遺症治療に関する相談 ●職場復帰、社会参加などに向けた相談 等

脳 卒 中 J-STAGE 早期公開 2019 年 8 月 8 日

第43回日本脳卒中学会講演 シンポジウム

◆ 総 説 ◆

脳卒中の復職の現状

佐伯 覚¹⁾ 蜂須賀明子¹⁾ 伊藤 英明¹⁾ 加藤 徳明¹⁾ 越智 光宏¹⁾ 松嶋 康之¹⁾

要旨：若年脳卒中患者の社会参加，特に復職は重要なリハビリテーションの目標であり，ノーマライゼーションの理念を具現化するものである。国際生活機能分類の普及に伴い，社会参加の重要性が再認識されている。また，政府が主導している「働き方改革」に関連した「治療と就労の両立支援」施策の一つとして，脳卒中の就労支援が進められている。しかし，脳卒中患者の高齢化・重度化，非正規雇用労働などの労働態様の変化は脳卒中患者の復職に多大な影響を与えており，若年脳卒中患者の復職率は過去 20 年間，40%に留まっている。脳卒中患者の復職は医療だけでなく福祉分野とも関連し，職業リハビリテーションとの連携，さらには，復職予定先の企業等との調整など様々なレベルでの対応が必要であり，医療福祉連携を超える高次の連携が必要となる。

Key words: stroke, return to work, employment support

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター 本年度の目標

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

10/29 世界脳卒中デイルイトアップ



琉球新報社本社ビルをライトアップ



公益社団法人
日本脳卒中協会
The Japan Stroke Association

公益社団法人日本脳卒中協会
大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-3-15 共同ビル 4 階
Tel:06-6629-7378 Email:info@jse-web.org

JSA 発 2025 送 第 47 号
2025 年 8 月 25 日

琉球新報社中部支社
中部広告グループ 御中

公益社団法人日本脳卒中協会
理事長 峰松 一彦
公益社団法人日本脳卒中協会
沖縄県支部長 大屋 祐輔



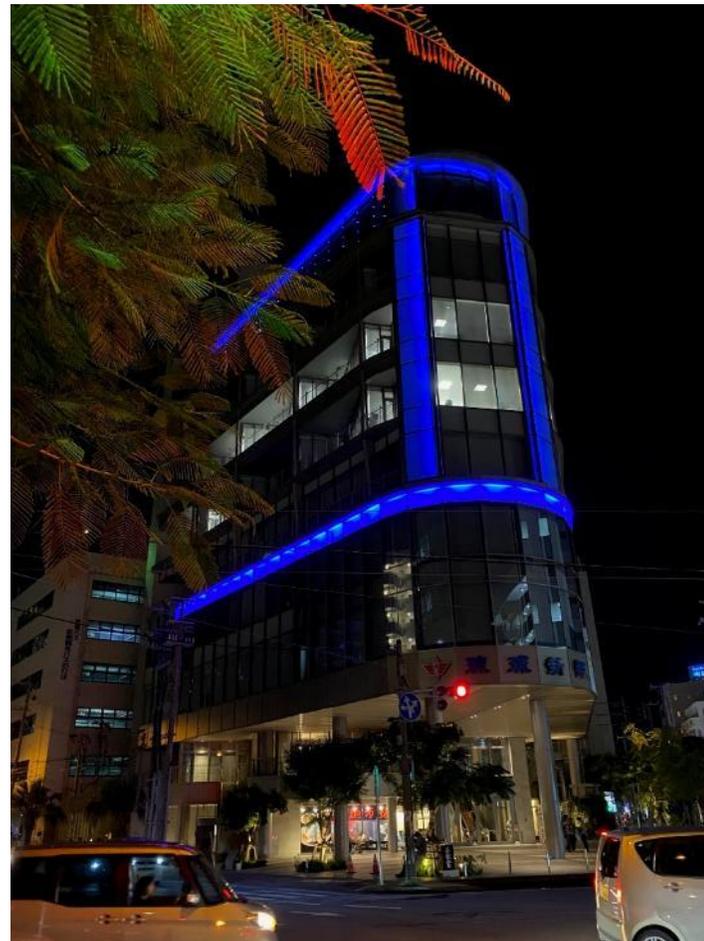
琉球新報社本社ビル
世界脳卒中デー ライトアップのお願い

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本脳卒中協会は、脳卒中の予防と患者・家族の支援を目的として 1997 年に設立され、2005 年 3 月に社団法人として、2012 年 10 月に公益社団法人に認可された団体で、(1) 脳卒中の予防ならびに発症時の対応に関する知識の普及と啓発、(2) 脳卒中患者の自立と社会参加を支援する事業、(3) パンフレット・広報紙等の監修・制作、(4) 脳卒中に関する調査研究、などを行っております。

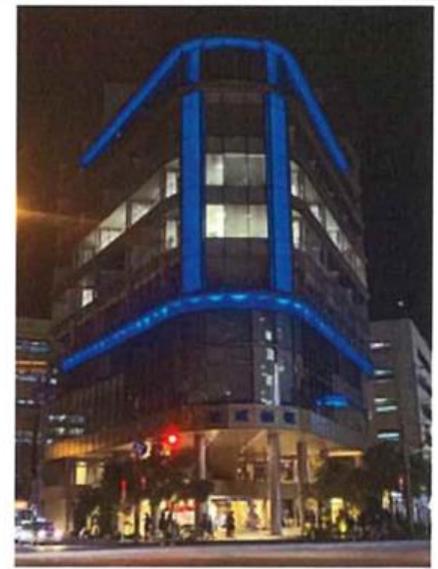
その活動の一環として、日本脳卒中協会が加盟している世界脳卒中機構 (World Stroke Organization, WSO) の「世界脳卒中デー (World Stroke Day) : 10 月 29 日」に合わせてキャンペーンを実施しております。

脳卒中は、予防が可能で、発症後 1 分でも早く専門的治療を開始することによって後遺症を軽減することができます。世界脳卒中デーでは、世界中で脳卒中の啓発をテーマにしたキャンペーンが展開されます。



10月29日は世界脳卒中デー。那覇市泉崎の琉球新報本社ビルが29日、イ

世界脳卒中デー啓発 新報ビルにブルーに



アップされた写真。脳卒中について理解を高めるキャンペーンの一環。日本脳卒中協会は、全国各地のランドマークや医療機関などを世界脳卒中機構のシンボルカラーに照らし、啓発活動をPRしている。

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センターの楠瀬賢也センター長は「脳卒中は発症後1分でも早く治療することで後遺症を軽減することができると、早めの対応と予防を呼びかけた。

2025年10月30日琉球新報社朝刊

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター 本年度の目標

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

10/29 世界脳卒中デー

➡ 脳卒中協会県支部と協力し協賛広告

世界脳卒中デー2025 10.29 沖縄タイムス・琉球新報

<p>地方独立行政法人 那覇市立病院 2025年10月 新病院棟 開院 病院長 外間 浩 脳卒中センター長 與那覇 博克</p>	<p>10月(一ヶ月間)は 脳卒中月間 10月29日は 世界脳卒中デー (WSD) 今年度のWSDのテーマ EVERY M1NUTE COUNTS 脳卒中? 1分・1秒でも早く救急車を! 今年度の脳卒中月間標語 「過信より 受信で防ぐ 脳卒中」(東京都 西川 泰樹氏 作)</p>	<p>脳卒中は突然! その主な症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 片方の手足・顔半分の麻痺・しびれが起こる (片足のみ、顔のみの場合もあります) ● ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない ● 片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける ● 力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする ● 経験したことのない激しい頭痛がする 	<p>医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 院長 大城 吉則 北中城村字比嘉801番地 ☎(098)932-1110</p>										
<p>社会医療法人敬愛会 ちばなクリニック 健康管理センター 院長 大城 眞人 沖縄市知花丁目25番15号 TEL:098-939-5477</p>	<p>脳卒中予防十か条2025</p> <table border="1"> <tr> <td>第1条 手始めに 高血圧から 治しましょう</td> <td>第6条 高すぎる コレステロールも 見逃すな</td> </tr> <tr> <td>第2条 糖尿病 放っておいたら 悔い残る</td> <td>第7条 お食事の 塩分・脂肪 控えめに</td> </tr> <tr> <td>第3条 不整脈 見つかれば 次第 すぐ受診</td> <td>第8条 体力に 合った運動 続けよう</td> </tr> <tr> <td>第4条 予防には たばこを止める 意志を持って</td> <td>第9条 万病の 引き金になる 太りすぎ</td> </tr> <tr> <td>第5条 飲むならば なるべく少なく アルコール</td> <td>第10条 脳卒中 起きたらすぐに 病院へ</td> </tr> </table>	第1条 手始めに 高血圧から 治しましょう	第6条 高すぎる コレステロールも 見逃すな	第2条 糖尿病 放っておいたら 悔い残る	第7条 お食事の 塩分・脂肪 控えめに	第3条 不整脈 見つかれば 次第 すぐ受診	第8条 体力に 合った運動 続けよう	第4条 予防には たばこを止める 意志を持って	第9条 万病の 引き金になる 太りすぎ	第5条 飲むならば なるべく少なく アルコール	第10条 脳卒中 起きたらすぐに 病院へ	<p>脳卒中は突然! その主な症状</p>	<p>社会医療法人友愛会 友愛医療センター 院長 嵩下 英次郎 脳神経外科部長 山田 創 豊見城市字与根 50番地212 ☎098-850-3811</p>
第1条 手始めに 高血圧から 治しましょう	第6条 高すぎる コレステロールも 見逃すな												
第2条 糖尿病 放っておいたら 悔い残る	第7条 お食事の 塩分・脂肪 控えめに												
第3条 不整脈 見つかれば 次第 すぐ受診	第8条 体力に 合った運動 続けよう												
第4条 予防には たばこを止める 意志を持って	第9条 万病の 引き金になる 太りすぎ												
第5条 飲むならば なるべく少なく アルコール	第10条 脳卒中 起きたらすぐに 病院へ												
<p>頭痛・めまい・しびれ・物忘れ・ふるえ 嶺井第一病院 浦添市中平466 TEL:0570-00-5806</p>	<p>動画で Check 公益社団法人 日本脳卒中協会 沖縄県支部 JSA The Japan Stroke Association 協賛: おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター</p> <p>脳卒中 が疑われたら 一刻も早く 救急車を呼びましょう。 気になる方は “脳ドック” を受けてみましょう!!</p>	<p>脳神経外科/脳神経内科/整形外科 リハビリテーション科/脳神経リハビリテーション科 医療法人 東部クリニック 高性能MRI検査が受けられます 院長 比嘉 浩 〒904-2174 沖縄市与根31119番1号 TEL: 098 932 0111</p>	<p>救急告示病院・厚生労働省臨床研修指定病院 沖縄医療生活協同組合 沖繩協同病院 院長 伊泊 広二 〒900-8558 那覇市古波蔵4丁目10番55号 TEL.(098)853-1200</p>										

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター 本年度の目標

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

8/22 ぎのわんシティFM収録(脳卒中のお話)

各論 (沖縄県の脳卒中に関して)

●脳梗塞:

アテローム血栓性脳梗塞が多い

●脳出血:

- ・脳卒中に占める割合が約3割と依然として高い(全国は2割程度)
- ・男性は70代がピークだが40代、50代の働き盛りの現役世代にも多い(脳出血症例の内40代+50代は約30%。これに60代まで加えると5割を超える)
- ・脳出血患者の半数以上に重症な後遺症を認める(以下、平成28年人口動態調査)
- ・65歳未満の死亡原因は高血圧関連疾患が最も多く、その中でも脳出血が最多で男性が多い
- ・全国と比較して脳血管疾患の死亡原因に占める脳出血の割合が高い(全国34%、沖縄44%)

●背景因子より

沖縄労働局の発表では職場における定期健康診断(働き盛りの健康診断)において、沖縄県は2022年まで何らかの異常所見を認めた有所見率は12年連続でワースト1位、2023年にはワースト2位となり13年ぶりに最下位脱出とはなっているが…

ここ最近では有所見率は約7割(検診を受けた人の7割が引っかかっている状況)で推移しており

脂質(約40%) > 血圧(約27%) > 肝臓(約24% 脂肪肝やアルコール) > 血糖(約20%)

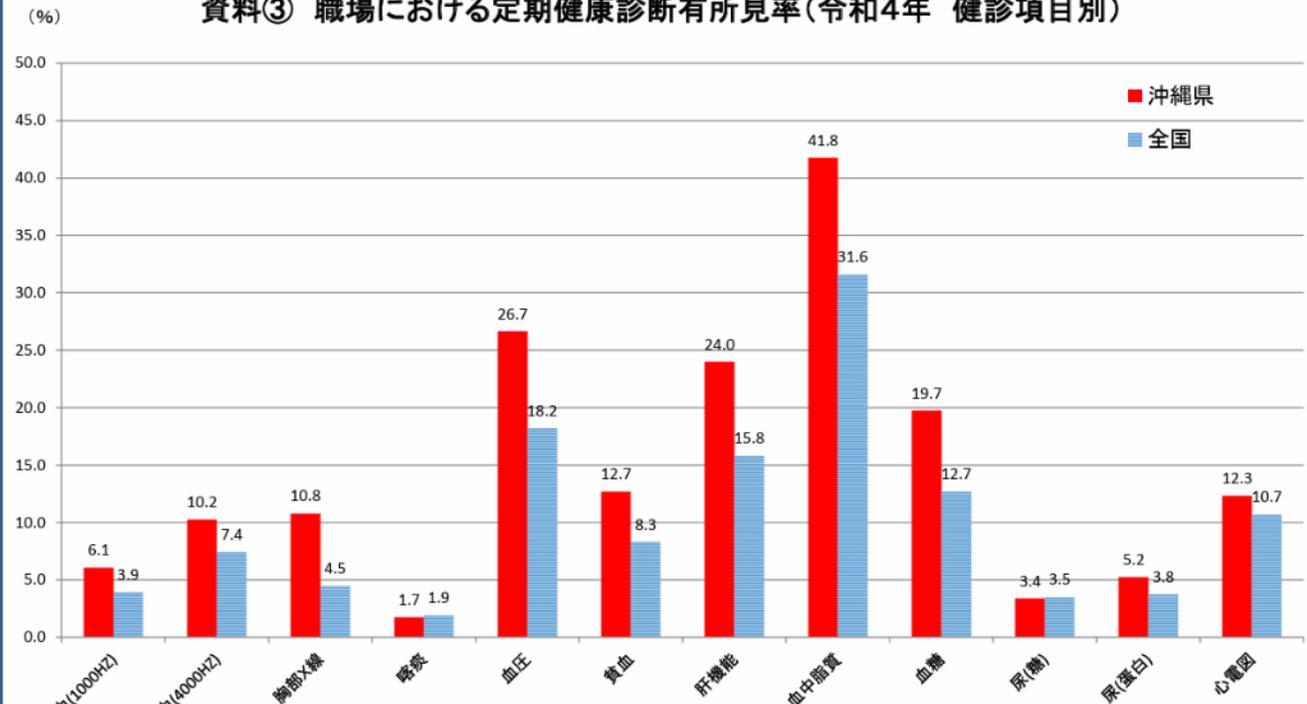
沖縄が12年連続で全国最悪 職場健診で「有所見率」7割 項目別は3位肝機能24.0%、2位血圧26.7% 最も高いのは…

※沖縄タイムス電子版 2023/9/4より

沖縄タイムス



資料③ 職場における定期健康診断有所見率(令和4年 健診項目別)



厚生労働省 沖縄労働局 Press Release 2003/8/29より

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

1/25 第2回市民公開講座
脳卒中のお話

沖縄県立博物館・美術館 講堂



<https://okimu.jp/guide/f-rental/> より

演者: 崎間 洋邦 先生 「知っておきたい、沖縄県の脳卒中の特徴」

特別講演

岡田 靖 先生「脳卒中の予防と脳卒中・心臓病等総合支援センターの活動」

前九州医療センター副院長 聖マリア病院常任理事
脳卒中協会福岡支部長 福岡県循環器病対策推進協議会委員 他
日本脳卒中学会(名誉会員、脳卒中専門医・指導医) 日本内科学会総合内科専門医
日本老年学会(代議員、老年病専門医・指導医) 日本脳ドック学会(理事、脳ドック認定医) 他

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

2/14 第3回市民公開講座
脳卒中と不整脈のお話 in 宮古島

未来創造センター 多目的ホール

演者：國場 和仁
(脳卒中に関する内容を予定)

演者：佐々木 毅
(不整脈に関する内容を予定)



<https://kadoguchi.net/gallery/detail.php?id=230>

より

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター 本年度の目標

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

7/18 脳卒中市民公開講座 (解析データ提供による後援)



那覇市立病院 × 市民公開講座

知ってほしい

脳卒中

の話

2025年7月18日(金) 14:00 ~ 16:00
受付開始13:30~

沖縄県立博物館・美術館 (おきみゅー) 講座室

第1部) 14:05~14:45
那覇市立病院
副院長 脳神経外科医 豊見山 直樹

第2部) 15:00~15:40
那覇市立病院

後援 協力 おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター
那覇市、沖縄タイムス社、琉球新報社

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター 本年度の目標

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動(調整中)

沖縄県全体の血圧管理目標値の設定と意識向上

【背景】

沖縄県における65歳未満(30~64歳)の死亡原因の第1位は、男女共に高血圧関連疾患であり、各年齢階級別の死亡率では虚血性心疾患、脳内出血において全国の都道府県別順位においてワーストとなっている階級がある。

【目標】

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター、沖縄県医師会、沖縄県の3者による県内で目指すべき血圧目標値を設定し、血圧管理および早期受診啓発を行うことにより県民の健康寿命の延伸に寄与する。

【手段】

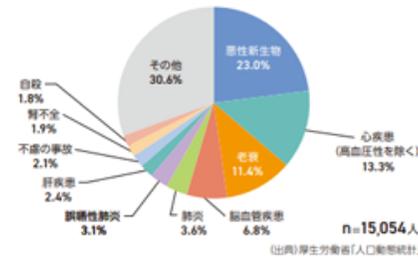
ポスターの作成/配布、県やセンター事業のホームページへの掲載、市民公開講座等での啓発活動

県民の健康状態の現状

死因の上位は生活習慣病!

令和4年の沖縄県の総死亡数は15,054人で死因別では、悪性新生物(がん)や心疾患、脳血管疾患等の生活習慣病が占めています。

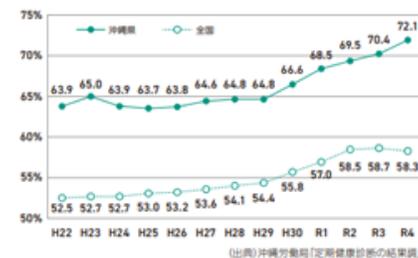
沖縄県死因別構成割合(R4)



働き盛りの健康状態が悪い!

職場における定期健康診断の有所見率は、年々増加しており、全国を大きく上回っています。平成23年から12年連続で全国最下位です。

職場における定期健康診断有所見率の推移



20~64歳の年齢階級別死亡率(全国ワースト3位以内)

疾患	男性	
	年齢階級	順位
心疾患	45~49歳	1位
	40~44歳	2位
	30~34歳	3位
脳血管疾患	30~34歳	1位
	40~44歳	2位
	55~59歳	3位
肝疾患	30~64歳	1位
糖尿病	60~64歳	3位

女性

心疾患	60~64歳	1位
	45~49歳	3位
脳血管疾患	30~34歳	3位
	40~44歳	1位
肝疾患	60~64歳	3位
	40~44歳	1位
糖尿病	40~44歳	1位
	55~59歳	

出典)厚生労働省「人口動態統計」から算出

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター 本年度の目標

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

8/3 心臓ハートの日(8/10)関連市民公開講座&健康無料相談会(心不全療養指導士ネットワークと共同主催)



②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

8/10 協賛広告供覧

友愛医療センター
 理事長 比嘉 国基 院長 嵩下 英次郎
 循環器内科部長 嘉敷 真教
 心臓血管外科部長 山内 昭彦
 脳神経外科部長 山田 創
 豊見城市字与祖60番地5 TEL 098-850-3811

首里城下町クリニック
 医師 田名 毅・比嘉 啓

腎臓科・高血圧症・リウマチ・膠原病・糖尿病
 循環器疾患・その他内科一般・血液透析(外来)

第一：TEL 098-885-5000
 第二：TEL 098-833-1001

那覇市立病院
 循環器 外 内 科
 2025年10月新病院開院予定

循環器内科・生活習慣病・一般内科
なんくる内科
 名護市真喜屋311番地 0980-43-6934

8月10日は健康ハートの日

ハートはともだち～大切にしよう、自分のハート～

健康ハートの日とは？
 8月10日が810（ハート）と読めることから、1985年にこの日を「健康ハートの日」とすることを日本心臓財団が提議しました。みなさんも暑い夏の一日に、毎日休みなく働いている心臓を思いやり、健康について考える「こころとからだの休日」を過ごしませんか。

健康ハート10か条

- ①血圧とコレステロールを正常に。(とりすぎ、糖尿病には注意して)
- ②脂肪の摂取は、植物性を中心に。
- ③食塩は調理の工夫で、無理なく減塩。(1日、6g未満を目標に)
- ④食品は、栄養バランスを考えて。(1日、30食品を目標に)
- ⑤食事の量は、運動量とのバランスで、甘いものには要注意。
- ⑥つとめて歩き、適度な運動。
- ⑦ストレスは、工夫をこらして上手に発散。
- ⑧お酒の量は、自分のペースでほどほどに。
- ⑨タバコは吸わない。喫煙に注意。
- ⑩定期検診をすれずに。(毎年一度は健康診断)

健康ハートの日
<https://www.kenko810.com/>

ハートはともだち！

心臓病啓発アンバサダー 三杉 淳

8月10日は健康ハートの日
 ハートはともだち～大切にしよう、自分のハート～

協賛：おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター

医療法人 博愛会
牧港中央病院
 理事長 洲録 盛一
 浦添市字牧港1199番地
 電話 (098) 877-0575

医療法人 緑水会
宜野湾記念病院
 内科/外科/整形外科/リハビリ科
 糖尿病外来/ボツリヌス療法
 令和7年8月 整形外科手術再開
 TEL : 098-893-2101

医療法人 和の会
与那原中央病院
 院長 山根 啓浩
 沖縄県島尻郡与那原町字与那原2905番地
 TEL 098-949-3201 URL <https://www.ych.or.jp/>

海邦病院
 〇内科 〇整形外科 〇泌尿科
 〇人工透析 〇リハビリテーション科 TEL 856-2111

②地域住民を対象とした情報提供、予防啓発活動

8/10 ライトアップ

今年も、全国の名所・協力施設がハート色にライトアップされます。

"ハートの色"とは**赤**です。

赤のライトアップを見たら、自分のハート **-心臓-** のことも気にかけてみてください。



琉球新報社本社ビル



※8/11 琉球新報 22面

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター 本年度の目標

③地域の医療機関、かかりつけ医を対象とした研修会、勉強会

脳卒中：沖縄脳卒中地域連携パス委員会



医療従事者のみなさまへ

県民のみなさまへ

沖縄県医師会について

更新情報

2025年8月22日 日本医師会生涯教育講座等についてを更新しました。

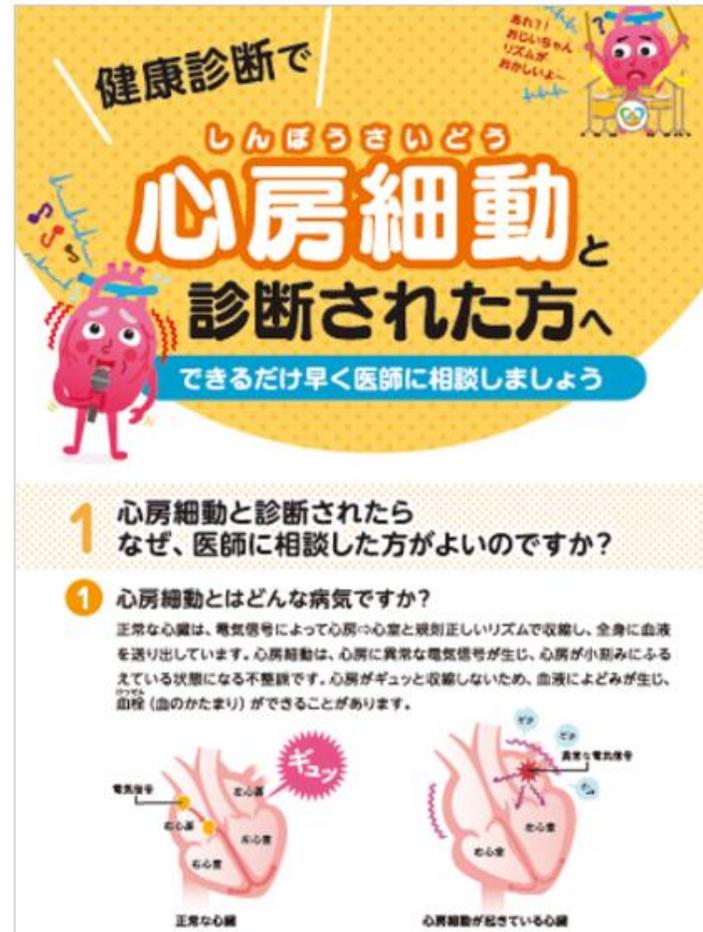


各部会(職種)

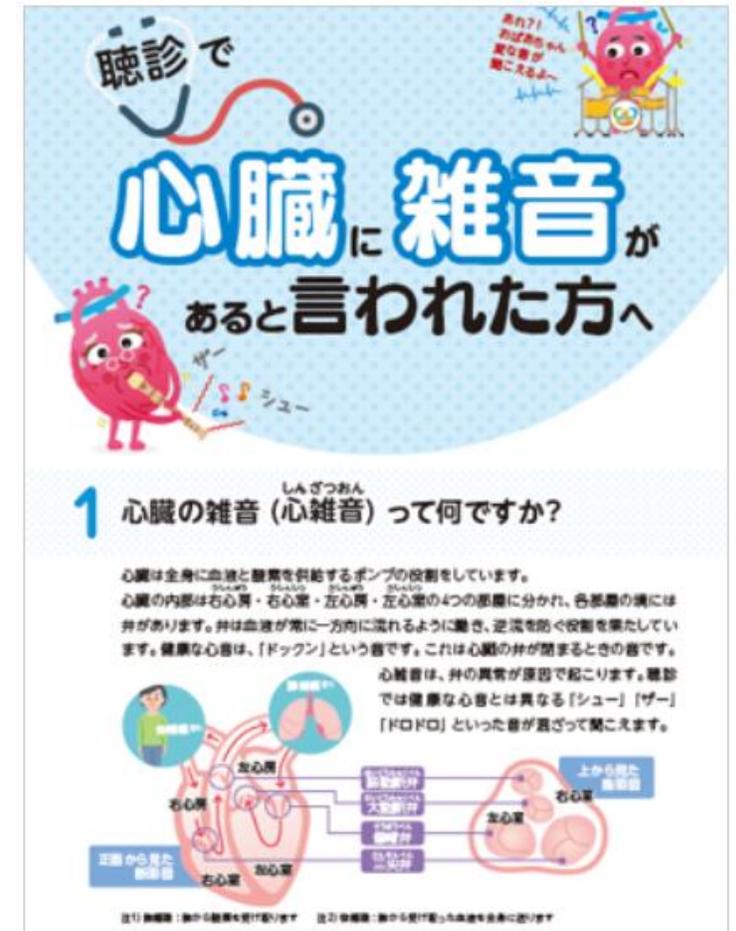
医師部会、看護師部会、リハビリ部会、MSW部会

※既存の事業との連携で展開を検討しています。

④患者や家族向けのパンフレット作製、ホームページの作成



日本循環器協会ホームページより



日本循環器協会ホームページより

④患者や家族向けのパンフレット作製、ホームページの作成



おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター

9/4センター開所式



おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センター

おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センターは立ち上がったばかりだが、沖縄県における脳卒中、心臓病の予防啓発、患者支援の為、県、医師会、各医療機関や施設、患者などをつなげるハブとして努めていきたいと考えている。

中核事業として、脳卒中・心臓病の共通の因子である「高血圧」をターゲットに考えている。

皆様のご理解、ご協力の程を宜しくお願い申し上げます。